

Comic Studioの データ書き出し②

(Comic Studio4 Proの場合)

「トーン」を使ったらデータ書き出しは「モノクロ2階調」が基本です。

トーンを使用したデータを印刷用データに書き出す際には、印刷時にモアレ発生の不安が少ない「モノクロ2階調」モードを推奨します。

1 寸法指定で書き出す

「ファイル→書き出し」を選択し、「ピクセル指定」または「寸法指定」で書き出します。「寸法指定」を選択すると右図の設定ウィンドウが現れますので、枠内を以下のように設定します。

出力サイズ:等倍で出力

出力範囲:ページ全体

色深度:モノクロ2階調

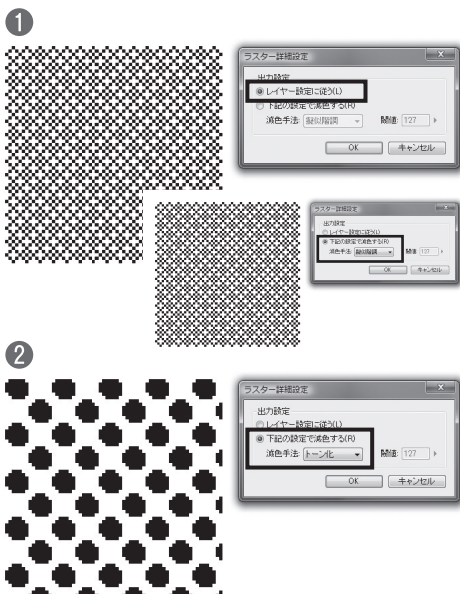
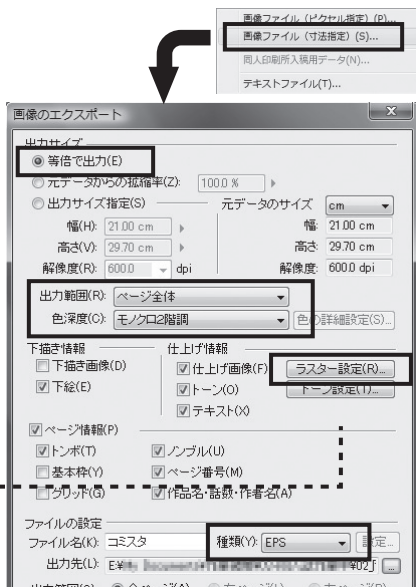
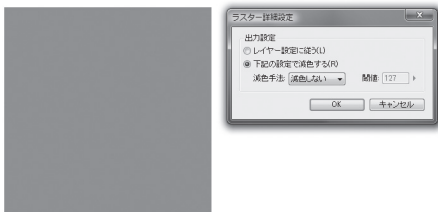
ファイルの種類:EPS (又はTIFFかPSD)

ラスタ設定:②を参照

2 ラスタ設定について

下図にある元のグレーの状態に対して、「レイヤー設定に従う」を選択した場合が図①、「下記の設定で減色する:トーン化」を選択した場合が図②です。

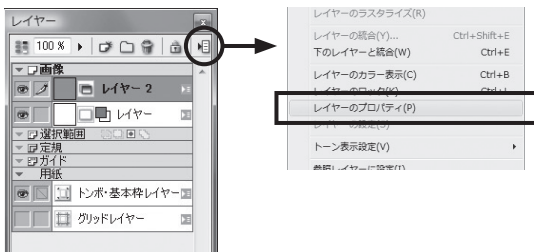
図①は「下記の設定で減色する:疑似階調」と同じ状態になってしまい、印刷には不向きなデータ(印刷会社により異なります)となるので注意してください。



3 レイヤー単位での設定

あらかじめレイヤーに設定を施しておくという方法もあります。レイヤー単位で個別に設定が可能です。

レイヤーパレット右上にある枠内のボタンをクリックし、メニューから「レイヤーのプロパティ」を選択してください。

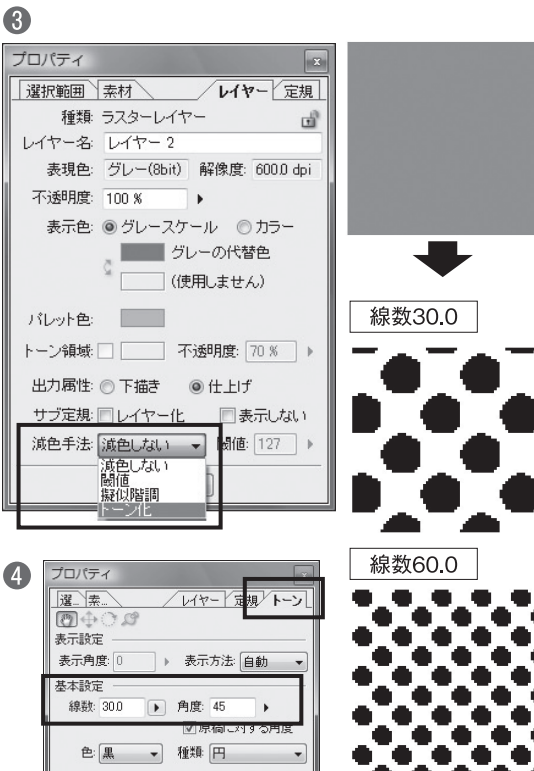


図③「プロパティ」下段の「減色手法」を「トーン化」に設定する事でグレーがトーンに変化します。

ここでタグを「トーン」に切り替えると、トーンの設定ウィンドウ図④に変わるので、「基本設定」の「線数」と「角度」を調整することで必要に応じた効果のトーンを作成出来ます。

※「線数」とはドット(黒丸)の大きさを表す単位で、作例のように数字が大きくなるほどドットは小さくなります。(ComicStudio 4Proでは、5~85線で調整が可能)

※「角度」を調整することで重ね貼りによるモアレ等を回避することが可能です。(印刷業界では通常、0・15・45・75°を使用。)



【注意してください】

上記レイヤー設定を施したデータを書き出す際は、前記書き出し設定内の「ラスター設定」を必ず①「レイヤー設定に従う」にしてください。

※②「下記の設定で減色する」を選択するとレイヤーの設定が無視されてしまいます。



「ラスター設定」の再度見直しを!!